

# 大阪狭山市の支援制度からみた 市民の音楽活動と動物愛護活動

## —大人のピアノ研究会のイベントを中心に—

三上香子

大人のピアノ研究会

### はじめに

本稿は、(公益財団法人)音楽文化創造電子版に掲載された大人のピアノ研究会の実践報告、活動ノート、事例報告をまとめなおし、それらを大阪狭山市の市民活動支援の視点からみた論考である<sup>1</sup>。

第1に大阪狭山市の取り組みのなかで、市民の音楽活動と猫愛護活動への支援について取り上げる。第2に大人のピアノ研究会が開催してきた音楽イベント「さやまシニア音楽祭」と「ぴあねこの会」について記載する。第3にこれら2つのイベントを同時に開催した「第5回さやまシニア音楽祭：地域猫マーケット」について述べ、最後に今後の課題と問題点について言及する。

### 1. 大阪狭山市の取り組み

大阪狭山市は大阪府の南東部に位置する人口58000人の都市である。市内には世界最古のため池「狭山池」と安藤忠雄氏がデザインをてがけた博物館があり、市民の憩いの場として親しまれている。

大阪狭山市では、まちづくりの基本方向を定めた「総合計画」が策定されている。2020年度満了の第四次総合計画では、人を生かしたまちづくりを実践する計画が進められてきた。2022年度は「みんなでつくる おおさかさやま」を合言葉に、新たにより地域の実情にそったまちづくりを進めるための地域別計画を追加した「第五次大阪狭山市総合計画」の審議中である<sup>2</sup>。このように大阪狭山市は、長期的な施策を策定し、市民協働としてのまちづくりを進めている。そこで

ここでは、大阪狭山市の市民活動支援のなかで、音楽活動と猫愛護活動に関連する支援について記載する。

### (1) 市民の音楽活動への支援

大阪狭山市の音楽活動への支援は、大阪狭山市役所内の生活推進部公民連携・協働推進グループが担っている。大阪狭山市は、2014年に市内の施設の予約や空き状況の照会ができるインターネットシステム「OPAS」を開始した。これにより市内の音楽愛好家は、公民館や文化会館（以下「SAYAKA ホール」）、コミュニティセンターなどの音楽室の利用が容易になった。また大阪狭山市は、趣旨に賛同するイベント事業に対して、「後援名義の使用承認」も実施している。

さらに大阪狭山市には、市民公益活動全般を対象にした「市民公益活動補助金」と、SAYAKA ホールを利用する公益活動をのみを対象にした「文化の花咲かそ補助金」の2つの補助金制度がある。これらの補助金は、営利を目的としない市民の公益団体の活動を援助する目的で設立された。2009年までは、SAYAKA ホールのイベントも「市民公益活動補助金」の対象にされていたが、それ以降のSAYAKA ホールで開催されるイベントについては、「文化の花咲かそ補助金」が担っている。次の図表1は、SAYAKA ホールのホームページで公開されている2012年度から2021年度までの「文化の花咲かそ補助金」の審査結果をまとめたものである。

図表1 文化の花咲かそ補助金の審査結果

年度	希望額	支給額	申請団体数	年度	希望額	支給額	申請団体数
2012	1,704,210	1,678,010	7	2017	2,590,790	1,549,000	14
2013	1,722,300	1,722,000	7	2018	1,477,690	1,305,730	8
2014	2,220,880	1,820,880	10	2019	2,357,000	1,650,000	13
2015	2,428,930	1,942,057	12	2020	1,551,280	1,377,000	9
2016	1,805,340	1,617,200	8	2021	1,400,850	1,045,000	6

※SAYAKA ホールのホームページより抜粋

上記のように「文化の花咲かそ補助金」では申請額の約8割が承認されている。

### (2) 猫愛護活動への支援

「ゴミをあさる」「敷地内で糞をする」などの猫問題は、地域住民間のトラブルを引き起こし社会問題化している。そのような猫問題に対し、自発的に活動を

している個人や市民団体が存在する。かれらは、Trap（トラップ：捕獲）、Neuter（ニューター：不妊手術）、Return（リターン：猫を元の場所に戻す）の頭文字をとった「TNR活動」と、適切な餌やりの徹底、啓発、譲渡会の開催なども行っている。

なお、大阪狭山市の動物に関する事柄は、市民生活部生活環境グループが担っている。該当部署のページには、登録制度や狂犬病など犬に関する項目が5つと、猫の給餌に関する項目が1つ、死亡の際の受付が1つの、合計7つの項目がしめされている。犬の科目が多い理由は、狂犬病予防法により、犬には市町村への飼育登録と予防注射が義務付けられているからである。猫の項目の具体的な内容は、「室内飼いの推奨」「所有者の明確化」「無責任な餌やりの禁止」である。さらに、猫の遺棄に関してのチラシも作成されている。このように大阪狭山市は、外猫の給餌は、具体的かつ明確にしめされていた。しかし、猫愛護活動団体や個人への補助金や、TNRの手術にかかる費用の助成などの制度についてはとくにみあたらなかった。このことから、2022年現在では愛猫活動をおこなう市民への直積的な支援は実施されていないと考えてよいだろう。

## 2. 大人のピアノ研究会の活動

### (1) 概要

近年日本では、大人の生涯学習として大人のピアノ学習が増加し、街では、大人のピアノ教室の看板も散見される。しかし大人のピアノに関する情報は少なく、学習者や指導者が大人のピアノについて学ぶ場所や機会があまりみあたらない。大人のピアノ研究会は、そのような要望を解決するために、2011年秋に数人の大人のピアノ指導者により発足された任意団体である。現在は、筆者を代表者として、研究者やピアノ以外の音楽指導者で構成されている。

大人のピアノ研究会では、これまで大人のピアノに関する研究や大人のピアノ指導者の育成をおこなってきた。また大人を対象にした定期的な音楽イベントも開催してきた。さらに近年は外猫問題に関心をもち、音楽イベントを通じて猫愛護団体を支援している。そこでここでは、シニアの音楽愛好家を対象にした「さやまシニア音楽祭」と、猫チャリティ歌声ピアノサロン「ぴあねこの会」について記載する。

## (2) さやまシニア音楽祭

### ①背景と目的

ピアノ学習者の演奏の場としてまず考えられるのは、教室の発表会だろう。しかし大人は、多数の子どもに混じって出演することが多いため、「自分より上手な子どもの存在に学習意欲を失う」「大人の出演者が少なく、悩みを共有したり励ましあったりする仲間を見つけにくい」などの声が、とくにシニアのピアノ学習者から聞こえてきた。そこで筆者は、シニアだけのピアノ発表会を開催することにした。これがさやまシニア音楽祭の背景である。

さやまシニア音楽祭の目的は、シニアがイベントを通じて音楽活動への意欲を高め、同年代の仲間と励ましあいながら生涯学習としての音楽とのかかわりを豊かにすることである。

### ②音楽祭の変遷

第1回は、2016年に60歳以上をシニアとする「60歳からのピアノ発表会」を開催した。第2回からは、参加者の要望を受けて他の楽器演奏者も出演対象にし、名称を「60歳からの音楽祭」に変更した。さらに第5回からは、今西幸蔵教授（高野山大学文学部教育学科主任・特任教授）のアドバイスをうけ「さやまシニア音楽祭」に再度名称を変更した。なお第5回では、猫愛護団体のマーケットも同時開催した（後述）。

下記の図表2は、音楽祭のこれまでの変遷を表にしたものである。なお、2022年秋に開催予定の「第6回さやまシニア音楽祭」では、社会通念に照らして65歳以上をシニアとし、参加年齢を引き上げる予定である。このように音楽祭では、参加者や関係者の意見を積極的に取り入れ、時代に即したコンセプトで開催されている。

図表2 音楽祭の変遷

	第1回 (2016年)	第2回 (2017年)	第3回 (2018年)	第4回 (2019年)	第5回 (2021年)
名称	60歳からの ピアノ発表会	60歳からの 音楽祭	同左	同左	さやまシニア 音楽祭
日程	6月25日	6月3日	6月30日	6月29日	12月25日
会場	堺市立東文化 会館フラット ホール	SAYAKA コンベン ションホール	同左	同左	SAYAKA 小ホール
後援名義	堺市	大阪狭山市	—	—	—
補助金	—	文化の花 咲かそ補助金	同左	同左	同左
出演者数	11	23	30	68	84
演目数	11	19	23	24	22

### ③補助金の内訳と推移

次に、「文化の花咲かそ補助金」について記載する。下記の図表3と4は、第2回から第5回までの収支決算表と、第5回さやまシニア音楽祭の支出の明細である。

図表3 さやまシニア音楽祭 収支決算一覧表

	申請額	交付額	事業収入	支出合計	自己負担額
第2回	41,200	30,000	57,000	97,624	-10,624
第3回	60,578	52,798	60,000	112,798	0
第4回	58,320	35,000	70,000	108,140	-14,280
第5回	83,800	67,000	100,000	184,639	-15,939

※第1回は補助金を申請せず

図表4 第5回さやまシニア音楽祭 (支出の明細)

項目	決算額	補助金対象経費	備考
舞台：附属設備料	10,700	10,700	ピアノ。椅子、司会台など
舞台：人件費	39,600	※19,800	
照明：付属設備料	4,500	4,500	基本照明、カラーフィルタ
照明：人件費	19,800	※9,900	
音響：附属設備料	10,000	10,000	マイク、場内拡声等
音響：人件費	19,440	※9,720	
施設使用料：ホール	23,200	23,200	
施設使用料：楽屋	3,100	3,100	
会場設営費	12,145	6,072	物品運搬、コロナ対策備品
宣伝費	13,326		チラシ、プログラム
通信費	6,468		宣伝、告知
その他	22,000		司会・スタッフ謝礼
合計	184,639	97,172	

※印は、決算額の半分が補助金の対象経費として認められるもの

このように、文化の花咲かそ補助金は、ホール貸館にかかる経費の大部分を賄うことができるため、市民の音楽活動の大きな支援になっている。

### (3) ぴあねこの会

大人のピアノ研究会では、猫愛護団体への支援もおこなっている。ここではそのうちのひとつ「ぴあねこの会」について記載する。

#### ①背景と目的

前述したように、大阪狭山市では、愛猫活動団体に対して具体的な支援はおこなわれていない。そのことから、大人のピアノ研究会では、愛猫活動の多くが市の支援を受けずにボランティアで実施されていることに着目した。そこで、有料

の音楽イベントを開催し、猫愛護活動団体に対して継続的な金銭的支援をすることにした。寄付先は、大阪狭山市内で多くの TNR 経験と保護猫譲渡の実績をもつ猫愛護団体に決定した。

## ② 内容

「ぴあねこの会」は、ピアノ伴奏で季節の童謡・唱歌や歌謡曲を歌う歌声サロンと、筆者や知人の音楽愛好家による「ミニコンサート」を組み込んだ有料イベントである。

「第1回ぴあねこの会」は、2019年12月6日に開催した。その後は毎月第1金曜日を開催日として現在に至る。開催当初は知人数名が参加してくれた。しかし、コロナ禍でその後も参加者が伸びず、寄付金もわずかしか集まらなかった。しかしコミュニティ誌にも取り上げられたことや口コミの影響で、最近はずこしずつ参加者が増加してきた<sup>3</sup>。画像は「ぴあねこの会」の2022年5月のプログラムと会場の様子である。

音楽好き、ねこ好きさん、集まれ!



# ぴあねこの会

保護猫チャリティ：歌声サロン

日時：2022年6月6日（金） 10時半～12時<sup>※</sup>  
場所：ミュージックハウス猫太郎<sup>※</sup>  
参加費：1000円（ドリンクつき）<sup>※</sup>  
※収入は愛猫団体に寄付させていただきます<sup>※</sup>

◆ピアノ：鯉のぼり、こいのぼり、背くらべ<sup>※</sup>  
おかあさん、みかんの咲く丘、茶摘み<sup>※</sup>  
◆カラオケ：白い花の咲く頃、くちなしの花、<sup>※</sup>  
からたちの花、<sup>※</sup>  
◆ミニコンサート：三上香子<sup>※</sup>



## 3. シニアの音楽愛好家と猫愛護活動団体への同時支援

### (1) 目的

このように、大人のピアノ研究会では、シニアの音楽愛好家と愛猫活動団体への支援の2つの支援活動をおこなっている。しかし以前から、これら2つの活動を組み合わせることができないかと思案していた。具体的には、音楽祭の会場で地域猫チャリティマーケットを開催することである。いうまでもないが、猫グッズの収入はすべて猫マーケットの出店者への寄付である。これが実現すれば、猫マーケットを目的にホールに足を運んでくれた人々にも演奏を聴いてもらえる機

会となるであろう。さらに、イベントに参加してくれた多くの市民に対し、大阪狭山市内の猫問題の啓発にもつながることが期待された。

## (2) 開催までの経緯

計画について知人の西尾征樹氏（大阪府公民館・関連施設連絡会事務局長）に相談したところ、音楽祭の開催予定会場である SAYAKA ホールの職員を紹介していただいた。そしてその職員の働きかけにより、音楽祭と猫マーケットの同時開催が実現できる運びとなった。

しかし、コロナの影響を受け、イベントの開催は困難を極めた。例えば、2020年春は開催を断念した。2021年もコロナは終息せず、やっと年末に開催される見込がたった。また、会場については、コロナ感染対策を徹底するために、これまで利用していたフラット型のホールから、小ホールに変更した。そのおかげでホワイエでの物品販売が可能になった。これで計画が一気に実現化されたともいえる。なお、猫マーケットについては、猫ともクラブ in 大阪狭山代表の中田智子氏（大阪狭山市在住）に委任した。中田氏の呼びかけで、南大阪を拠点とする愛猫活動団体が、出店を受諾してくれた。

## (3) 実施内容

第5回狭山シニア音楽祭と地域猫チャリティマーケットは、下記日程で開催された。

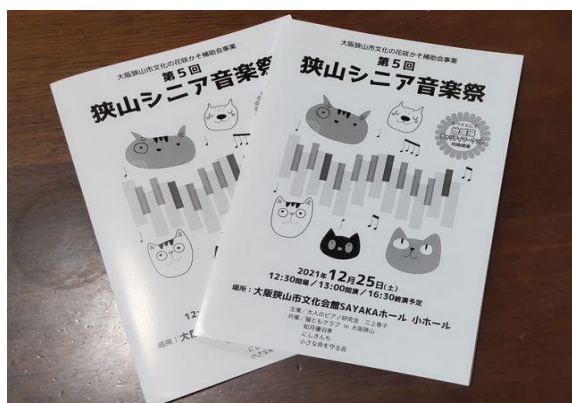
- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"><li>■ タイトル：第5回さやまシニア音楽祭と地域猫チャリティマーケット</li><li>■ 日時：2021年12月25日(土)</li><li>■ 会場：大阪狭山市文化会館「SAYAKA ホール」小ホール</li><li>■ 内訳：音楽祭出演者84名、愛猫活動ボランティア4団体<br/>「猫ともクラブ in 大阪狭山」「にしきんち」「小さな命を守る会」「如月優羽季」</li><li>■ 入場料：無料</li></ul> |
|---|

当日は小ホールで音楽祭がおこなわれ、ホワイエで猫マーケットが開催された。下記の図表5は、イベントの流れを表にしたものである。

図表5 第5回狭山シニア音楽祭の流れ

	音楽祭（小ホール）	猫マーケット（ホワイエ）
午前	リハーサル	地域猫啓発ポスター・チラシの設置、商品の搬入・陳列
12:00	開場	販売開始
12:30	写真撮影・開演	
16:00		販売終了、集計・収支報告
17:00	終演	撤退

以下は、演奏会と猫マーケットの様子である。（左：プログラム、右：プレゼント用しおり）



音楽祭の集合写真





尺八演奏とキーボード合奏



猫マーケットの物品販売と啓発ポスター、里親募集チラシ

## 4. おわりに

音楽祭は予定通り滞りなく開催された。また猫マーケットからも、猫問題の啓発やグッズ販売が順調におこなわれたと報告を受けた。このことから、大人のピアノ研究会のシニアの音楽愛好家と猫愛護団体への同時支援という目的は、達成されたと思われた。しかし、イベントがホール内で開催されたため、猫グッズ購入者があるていど限定されてしまうという指摘もあった。そこで今後は、通りすがりの人が気楽に音楽を聴いたり、猫グッズを買ったりできるイベントの開催を検討したい。

なお、今回の調査で気になったのは、大阪狭山市が猫愛護団体への直接的な支援が皆無だったことである。費用や人材など諸般の事情も考慮されるが、すでに社会問題化している猫問題に対し、市民活動に一任している行政のあり方は早急に再考されるべきである。今後は動物愛護法の視点から、大阪狭山市の取り組みについて考察したいと考えている。

---

### 【注記】

- 1) 「個人による公益活動の可能性—市民協働型音楽イベント「60歳からの音楽祭の実践報告」、音楽文化創造、音楽文化の創造電子版 voi. 13、2020年。【活動ノオト】保護猫チャリティの活動（大人のピアノ研究会の社会課題解決）、音楽文化創造ホームページ、2022年。【事例報告】第5回さやまシニア音楽祭と地域猫チャリティマーケット」音楽文化創造ホームページ、2022年。
- 2) 大阪狭山市：第五次大阪狭山市総合計画の策定に向けた取組みについて <http://www.city.osakasayama.osaka.jp/gyosei/shinokeikakushisaku/sogokeika/ku/1534210740016.html> (2022.5.7 最終検索)
- 3) (有) コミュニティ 2525 が発行する地域情報誌で、泉北と金剛、狭山周辺に40000部を配布する。

### 【参考文献】

1. 今西幸蔵「市民協働の視点による社会教育行政の動向：大阪狭山市の事例」『日本生涯教育学会年報』2008年。
2. 今西幸蔵「地域形成への生涯学習的アプローチ：実践者の語りにみるまちづくりのプロセス」『平成26年度神戸学院大学文学部研究推進費研究結果報告書』2015年。
3. 今西幸蔵「地域形成への生涯学習的アプローチ2：住民側の実践者の語りにみるまちづくりのプロセス」『平成26年度神戸学院大学文学部研究推進費研究結果報告書』2016年。
4. 今西幸蔵『協働型社会と地域生涯学習支援』法律文化社、2018年。
5. 久保田慶一『社会教育』音楽の力で地域をつくる：音楽文化の創造、日本青年館、72、2017年。
6. 山岡龍一・岡崎晴輝『市民自治の知識と実践』放送大学教材、2015年。